



理工学部の長田教授と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(2)

【概要】

令和3年6月21日(月)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部の教員と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生，理工学部機能物質化学科の学生らが本年度2回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行なっています。

令和3年度第2回は6月21日(月)に先進健康科学研究科（理工系）の大学院生と理工学部機能物質化学科の学部生が、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、「これで君もすし職人!!」と題して、人工いくらを作成する理科実験を行いました。

まず、オリジナル人工いくらを、アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムを用いて作成しました。色素やラメで人工いくらを着色すると、子どもたちは独創性のある色とりどりの作品を作り上げていました。続いて、マグネタイト、蓄光物質、pH指示薬を加えることで、磁石に反応するもの、暗闇で光るもの、そしてpHで色が変わるものなど、様々な人工いくらを紹介しました。子どもたちは時間の許す限り全ての作品を作ろうとチャレンジしていました。ボランティアの学生らも子どもたちのチャレンジ精神に元気もらったようです。



「理科実験教室」の様子